

## 志の実現に向けて5

### はじめに

新年度が始まり約1か月半が経過しました。4月の慌ただしい雰囲気から落ち着きを取り戻しているようですが、生徒たちは7月に行われる文化祭「昇陽祭」に向けて取り組みを始めているようです。

さて、広島市で5月19日（金）から21日（日）の日程で「G7サミット（主要国首脳会議）」が行われました。また、それに合わせて各地で関係閣僚会合が開催されています。教育分野については、5月12日（金）から15日（月）の日程で、「富山・金沢教育大臣会合」が行われました。そして、最終日に議論の成果のまとめとして、「富山・金沢宣言」が採択されました。「富山・金沢宣言」は7つの内容としてまとめられています。その中の2つ目は以下のような内容でした。

第二に、子供たち一人一人のウェルビーイングの向上につなげていくため、私たちは、幼児教育を含め全ての子供に包摂的かつ公平で質の高い教育へのアクセスを保障していく。そのため、一人一人の子供にとっての個別最適な学びを進め、互いに学び合う機会を確保していく。今後の教育においても、教師と生徒の対面によるやりとりが引き続き最も重要であることから、対面による教育を置き換えるものとしてではなく、補完するものとして年齢や発達段階に応じたデジタルの活用を奨励する。デジタルの格差が悪化しないようにしつつ、教育を目的とした生成 AI の利用を含むがこれに限らず、教育のデジタル化の推進に伴う課題を継続的に把握し、リスクを軽減することの重要性を認識する。また、私たちは、学校段階間及び学校とより広いコミュニティとの連携・接続を図る。能力のある、十分な支援を受けた教職の価値を認識し、教師の指導力向上に向けて、世界水準の養成や専門的な研修の機会に教師がアクセスできるよう取り組むほか、良質な幼児教育を支援し、質の高い優秀で意欲のある教師の確保や学校の指導・運営体制の整備を行う。また、教師のウェルビーイングを支える文化の構築に向けて学校とともに取り組むとともに、教師が本来の業務に専念出来る環境づくりを図る。これには、少人数学級の推進や教師が担う業務の適正化、処遇を含む働きやすい労働条件などが、それぞれの国・地域・地方の事情に応じて含まれ得る。私たちは、それぞれの国における教育制度の相違を尊重しつつ、障害、言語・文化、地理的・文化的出自、民族、社会経済的状況、性的指向・性自認、いじめや不登校などの課題に関わらず、全ての子供の可能性を引き出す教育の実現に努めていく。障害のある子供の教育においては、特に障害のある子供と障害のない子供が可能な限り共に協働的に学ぶための環境整備と、一人一人の教育的ニーズに応じた学びの場の整備を同時に進める重要性について認識を共有する。

今日の日本の教育を考えるうえで大変示唆に富む内容だと思えます。教育のグローバル・スタンダードを進めていくうえでも、「デジタル化への対応」、「教員の負担軽減」、「多様性への対応」は緊縛の課題として取り組んでいく必要があると考えています。

### 「大学等の進学に向けて必要とされる資金」について

大学等の進学にはお金がかかります。私が感じていることですが、受験生たちは、保護者がその負担に耐えられるかどうか気にしているようです。

さて、日本大学生協同組合の「2022年度保護者に聞く新入生調査」によると、入学前に必要とされる資金は以下のとおりです。これによると、自宅外生は約223万円、自宅生は約161万円となっています。

〔受験・入学時の費用の比較（平均値）（単位：円）〕

項目	自宅外生			自宅生		
	国公立	私立	全体	国公立	私立	全体
出願のためにかかった費用	115,300	129,700	119,600	115,800	143,900	132,300
受験のための費用	81,000	78,300	80,300	28,200	32,900	31,000
入学した大学への学校納付金	612,000	915,400	704,900	607,100	915,200	792,900
入学しなかった大学への納付金額	265,200	256,000	264,300	255,400	264,500	258,000
合格発表や入学手続きのための費用	50,900	52,100	51,200	10,800	13,500	12,300
入学式出席のための費用	39,200	41,000	51,200	12,200	13,000	12,700
教科書・教材購入のための費用	250,000	211,200	238,300	226,900	180,000	198,900
住まい探しの費用	232,900	293,500	251,000	-	-	-
新生活用品購入の費用	300,700	299,000	337,700	87,600	79,900	83,000
その他の費用	354,000	299,000	337,700	124,200	100,800	110,500
合計	2,128,700	2,465,200	2,231,800	1,387,600	1,757,800	1,609,800

後期納付予定金額	270,800	591,200	366,800	269,800	594,100	465,500
----------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

また、自宅外生は、その他、部屋探しの費用、新生活用品を購入する費用等に加えて家賃が発生します。地域によって異なりますが、約60万円かかっています。

〔地域別一人暮らしを始めるための費用比較（平均値）（単位：円）〕

	北海道	東北	北関東・甲信越	東京・埼玉・千葉 神奈川	北陸
住まい	198,800	225,600	241,300	359,500	256,600
新生活	301,100	309,100	292,800	297,200	29,0400
家賃	48,900	48,300	42,700	70,700	45,300
	大阪・兵庫・和歌山	京都・滋賀・奈良	中国・四国	九州・沖縄	
住まい	272,000	295,500	213,300	210,700	
新生活	319,900	299,900	298,900	295,500	
家賃	56,000	56,400	43,500	44,300	

※ 住まい：部屋探しの費用（敷金等、初期費用含む） 新生活：新生活品購入費用

家賃：家賃平均額（月）（管理費・共益費含む）

資金の問題については、足りない資金は、奨学金の給付もしくは貸与を検討することが多いかと思えます。奨学金には、大学、団体、地方公共等が主体となっていて行っているものもありますが、一般的なものとして、日本学生支援機構の奨学金があります。日本学生支援機構の奨学金には、返済不要の給付奨学金と返済の必要のある貸与奨学金があります。

〔給付奨学金〕

	国公立		私立	
	自宅生	下宿生	自宅生	下宿生
第Ⅰ区分（満額）	29,200	66,700	38,300	75,800
第Ⅱ区分（満額の3分の2）	19,500	44,500	25,600	50,600
第Ⅲ区分（満額の3分の1）	9,800	22,300	12,800	25,300

〔貸与奨学金〕

		大学				短期大学・専修学校（専門課程）			
		国公立		私立		国公立		私立	
		自宅生	下宿生	自宅生	下宿生	自宅生	下宿生	自宅生	下宿生
第一種奨学金	最高月額	45,000	51,000	54,000	64,000	45,000	51,000	53,000	60,000
	最高月額			50,000	50,000			50,000	50,000
	以外の月額		40,000	40,000	40,000		40,000	40,000	40,000
		30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
		20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
第二種奨学金		20,000～120,000（10,000円単位）							
入学時特別増額貸与奨学金		100,000～500,000（100,000円単位）							

なお、返還方式として、「所得連動返還方式」と「定額返還方式」があります。

返還方式	所得連動返還方式	定額返還方式
概要	所得に応じた月額で返還します	借りた総額に応じた月額で返還します
モデルケース	年収：300万円→月額：約8,600円 年収：450万円→月額：約15,400円	5万円を4年間（240万円）借りた場合 →月額：約13,333円（15年間）
特長	所得があまり高くない時でも無理のない月額で返還できるので、将来のリスクに備えられます	最後まで同じ月額で返還するので、返還の計画がたてやすくなります

返済月額について、「さほど大きな金額ではない」、もしくは「働いて返済すればいい」と考えている生徒もいるかもしれませんが、しかし、奨学金を申し込む時点では、将来の収入は確約されていません。まだ働いていない中で、働き続けている自分の姿を想像するとともに、生活を送っていくうえで必要とされる経費に加えて奨学金を返済する必要があることを覚悟することが必要です。モデルケースで示されている15年間という返済期間の中で予期せぬ出来事に直面することもあるかもしれません。働くことへの具体的な図を描けるかどうか、また、仕事に就けたとしても、生活に余裕がなければ奨学金の返済はできません。進学予定の大学等の設置者（国公立・私立）、通学の形態（自宅・自宅外）についても考慮に入れながら、大学生活をどのように維持していくのが現実的に考えていく必要があるかと思えます。

なお、奨学金については、ガクシー ([gaxi.jp](http://gaxi.jp)) というサイトに多くの奨学金が紹介されています。是非、確認してみてください。